

■**鯀形蕙齋(北尾政美)** 浮世絵師から藩御用絵師へ華麗な転身。“北齋嫌いの蕙齋好き”といわれたほど人気があった。

くわがたけいさい
加賀千代句集1764＝

江戸堀留杉森新道で、豊職人赤羽義珍の子に生まれる。俗称三二郎あるいは三治郎。

幼時より絵を描くことが大好きで、

田沼意次老中1772＝ 8歳：
大原騒動・・・1773＝ **9歳**：

雨月物語刊・1776＝12歳：_一世を風靡していた浮世絵師北尾重政に入門。

ワッ船蝦夷来 1778＝14歳：咄本「小鍋立」に挿絵を描き、巻末に“北尾重政門人三治郎十五歳画”と署名して_デビュー。

・・・1780＝16歳：北尾門人三二郎と称して、同門の窪俊満作の「浦山太郎兵衛竜宮の巻」三巻、「桃太郎宝壱」三巻になど、***初めて黄表紙6種の挿絵を描いた頃から画業が本格化、師より“政美”の名を許され、**
・・・1781＝17歳：俊満作の「異国出見世吉原」三巻など黄表紙8種と伊庭可笑作の咄本「菊寿盃」二巻の挿絵を描く。
天明大飢饉始1782＝**18歳**：

黄表紙など版本類の挿絵で才筆を揮い、作品数は鳥居清長を抜いて最多となるが、美人画は極めて少ない。のちに、狂歌師となる窪俊満、戯作家となる山東京伝とともに、重政門下の“三英才”と呼ばれる。

田沼意次失脚1786＝22歳：

寛政改革始・1787＝23歳：戯作家森島中良(蘭学者桂川甫榮でもある)の「紅毛雑話」の挿絵の一部を描く。

北尾政美時代の主な作品は、「柳下茶店」「浅草寺の図」「浅草金龍山遠山風景図」「芸妓図」や、

混浴禁止・・・1791＝**27歳**：

ワッス来日・1792＝28歳：この前後、錦絵11枚揃いの「浮絵仮名手本忠臣蔵」など。画業のほかにも、この年、気象天業の戯作号で、「神伝路考由」(歌川豊国画)という黄表紙を出したり、森島中良に狂歌を学び麦野大蛇磨と号したという。また、杉森新道にちなんで杉草と号し、父が豊職人だったことから、仲間から“豊屋の三公”と呼ばれた。おそらく森島中良や津山藩家老で南画家の広瀬台山らと交流していたことが縁となって、

松平定信引退1793＝29歳：

オラダ 正月・1794＝30歳

昌平饗始・・・1797＝33歳

古事記伝・・・1798＝34歳

蝦夷地直轄始1799＝35歳

***突然、美作国津山藩松平家の御抱絵師として出仕することになり、剃髪し法体となり、“蕙齋”と改号。**

鯀形姓を許され蕙齋紹真と名乗るとともに、命により、江戸城奥絵師狩野惟信に入門。「鳥獣略画式」、

「人物略画式」、

***「山水略画式」と、独自の画風を確立、風流人士が自作の詩歌・俳句などに即興に絵を添えて楽しむ指南書として大評判となり、北齋漫画を先駆することとなる。浮世絵はもっぱら肉筆となり、**

伊能測量始・1800＝**36歳**：

ワッ船来航始1803＝39歳：

_松平定信の求めに応じて、「東都繁盛図巻」や、

ワッノ報復・1806＝42歳：**_多種多様な職業に従事する人々を、軽妙かつ生き生きと描いた傑作「近世職人尽絵詞」を制作、**

津山藩主の参勤交代に供として付き従い、

浮世風呂・・・1809＝**45歳**：

京都の岸派の絵師横山華山の影響を受け、俯瞰的な名所絵を発案して_代表作「江戸一目図屏風」(六曲一隻)を制作。東京スカイツリー完成時、展望台に現在の風景と見比べられるよう実物大パネルが設置された。

高田屋拿捕・1812＝48歳

浮世床・・・1813＝49歳

亀田鵬齋や酒井抱一らと親しく交流する。_士分となり、

「黒髪山縁起絵巻」。「魚貝略画式」「草花略画式」を追加、

「吉原十二時絵詞」などを手がけている。

水野忠成老中1818＝**54歳**：翌年にかけて「徒然草屏風」、

伊能図完成・1821＝57歳：「隅田川図屏風」(八曲一隻)制作。

ほかに、「飛鳥山図」「桜花遊宴図」「桜下美人図」「つくばね図」など、***様々な絵を描き続けて、**

ワッ木鳴滝塾1824＝60歳：病_没した。